

## 新しい「日本語能力試験」、初の全レベル実施 12月5日、2010年第2回日本語能力試験に 国内外44万人以上が挑戦します。

- 「日本語能力試験」は、日本語を母語としない人を対象に、日本語能力を測定し認定することを目的として、1984年に始まりました。国内は（財）日本国際教育支援協会が、海外\*は国際交流基金（ジャパンファウンデーション）が現地共催機関の協力を得て、実施しています（\*台湾は、（財）交流協会と共催で実施）。
- 2010年第1回試験から、日本語能力試験は新しくなりました。（詳細は次ページをご参照ください。）レベルをN1～N5の5レベルに増やし（N1が最高レベル）、また、実際の場面の言語コミュニケーション能力を重視した内容に改定しました。
- 2010年第2回試験は、2010年12月5日（日）にN1～N5の全5レベルを、以下のとおり実施します。改定後、初の全レベル実施となります。  
※第1回試験は、7月4日（日）にN1～N3の3レベルを、国内33都道府県と海外13の国・地域80都市で実施しました。

### 2010年第2回日本語能力試験

日本語能力試験公式サイト: <http://www.jlpt.jp/>

**実施日** 2010年12月5日（日）

**実施会場**

**国内：35都道府県**

**海外：57の国・地域、計186都市**

今回から新たに実施する国（都市）は、チェコ（ブルノ）、ポルトガル（ポルト）、モロッコ（ラバト）の3カ国です。

その他に、今回から新たに実施する都市は、高陽・富川・梁山（韓国）、フィラデルフィア・ボストン（米国）、ヴェネツィア（イタリア）、ハンブルク（ドイツ）の7都市です。

**実施レベル** N1～N5の5レベル

**応募者数**

**第2回試験の総応募者数：約44万1千人（国内：約8.6万人、海外：約35.5万人）**

2010年第1回（7月）試験・第2回（12月）試験の通算応募者数は、約70万人（国内14.4万人、海外55.9万人）です。

**新しい日本語能力試験に関するお問い合わせ：**

**国際交流基金 日本語試験センター（日本語事業運営部）**

Tel: (03) 5367-1021 Fax: (03) 5367-1025 Email: [jlptinfo@jpf.go.jp](mailto:jlptinfo@jpf.go.jp) 広報担当：高野（こうの）、金原（きんばら）

なお、日本国内における日本語能力試験実施についてのお問い合わせは、財団法人日本国際教育支援協会 事業部日本語教育普及課 日本語能力試験係 Tel: (03) 5454-5215 Fax: (03) 5454-5235 へお願いします。

## 新しい「日本語能力試験」:改定の4つのポイント

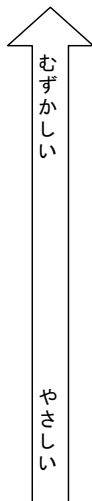
### 1. コミュニケーション能力をより重視した試験になります。

新試験では、①日本語の文字や語彙、文法についてどのぐらい知っているかだけでなく、②その知識を実際のコミュニケーションで使えるかも大切だと考えます。そこで、①を「言語知識(文字・語彙・文法)」、②を「読解」と「聴解」という試験科目によって測ります。新試験は、これらを合わせて、総合的に日本語のコミュニケーション能力を測る試験になっています。

### 2. レベルが5段階に増えて、自分に合ったレベルが選べるようになります。

旧試験のレベルは4段階(1級～4級)でした。新試験は5段階(N1～N5)です。新しくN3というレベルができました。旧試験の級で考えると、N3は2級と3級の間のレベルです。レベルが増えたので、受験者は自分に合ったレベルを選んで受験しやすくなります。

レベル	認定の目安	新旧レベルの対応(参考)
N1	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる	合格ラインが旧試験の1級とほぼ同じ。ただし、旧試験の1級よりやや高めレベルまで測れるようになる
N2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる	旧試験の2級とほぼ同じレベル
N3	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる	旧試験の2級と3級の間のレベル【新設】
N4	基本的な日本語を理解することができる	旧試験の3級とほぼ同じレベル
N5	基本的な日本語をある程度理解することができる	旧試験の4級とほぼ同じレベル



### 3. 日本語の能力がより正確に測れるように、得点の出しかたが変わります。

新試験では、等化という方法を取り入れて、いつの回の試験でも同じ能力であれば同じ得点になる「尺度得点」に変わります。

### 4. 日本語を使ってどんなことができるかがイメージしやすくなります。

各レベルの合格者が、実際に日本語を使って、どのようなこと(読む・話す・聞く・書く)ができると考えているかを調査し、その結果をまとめて「日本語能力試験 Can-do リスト」(仮称)を発表します。このリストから、合格者やまわりの人々は「このレベルは実際の学習・生活・仕事の場面でどんなことができそうか」のイメージを持てるようになります。

《次回試験は2011年7月3日(日)、N1 から N5 の全レベルです》